

作成日：2025 年 11 月 18 日（第 1 版）

2025 年 7 月～2026 年 4 月にバーンアウトに関する調査を

受けられた／今後受けられる看護師の方へ

「認知症患者に対するマルチモーダル・コミュニケーションの 包括的評価」へのご協力をお願い

1 研究の概要

【研究の背景・目的】

認知症患者は、入院や治療に伴って、興奮・不安・抑うつなどの認知症の行動・心理症状（BPSD: Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia）をしばしば呈します。BPSD の治療では、まず非薬物的介入が優先されますが、その有効性に関するエビデンスはまだ十分ではありません。

非薬物的介入の 1 つにユマニチュード®があります。これは、「見る」「話す」「触れる」「立つ」を組み合わせたマルチモーダル・コミュニケーション技術です。不適切なコミュニケーションは BPSD の主な原因であり、医療従事者がユマニチュード®を習得することで、BPSD の改善や向精神薬使用量の減少につながると報告されています。

本研究では、みらい光生病院が令和 7 年 7 月から導入したユマニチュード®の効果を、認知症患者・看護師・病院の 3 つの視点から評価し、その有効性を検証します。

【研究の対象となる方】

2025 年 7 月～2026 年 4 月にバーンアウトに関する調査（研究課題名：ユマニチュード®導入が看護師のバーンアウトに与える影響—混合研究法による 1 病院での検討—）を受けた、または今後受ける予定の、みらい光生病院の病棟に勤務する常勤看護職員の方が対象です。

【研究期間】

この研究の実施を許可された日から 2030 年 3 月 31 日までです。

ご自身がこの研究の対象者に該当すると思われる方で、ご質問等がある場合は、「7 相談やお問合せがある場合の連絡先」へご連絡ください。また、情報をこの研究に使ってほしくない場合もご連絡ください。その時点であなたの情報を研究対象から取り除きます。ただし、研究の進捗状況によっては、あなたの情報を取り除くことができない場合があります。

この研究は、名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会の審査を受け承認されたうえで、研究機関の長から実施の許可を受けています。また、この研究が適正に実施さ

れているか、継続して審査を受けます。

この委員会にかかわる規程等は、以下の Web サイトでご確認いただけます。

【名古屋市立大学病院臨床研究開発支援センター “患者の皆様へ”】

URL : <https://ncu-cr.jp/patient>

2 研究の方法

本研究は、マルチモーダル・コミュニケーション（ユマニチュード®）の効果を、①認知症患者・②看護師・③病院の 3 つの側面から経時的変化として包括的に評価することを目的とします。調査項目と評価ツールは以下の表にお示しします。

具体的には、①認知症患者については、3 か月ごとにその時点で入院している患者を対象とする反復横断研究を実施し、②看護師については、先行研究で収集した同一対象者のデータを二次利用し、バーンアウトの状態を継続的に追跡する縦断研究を実施します。さらに、③病院の指標は、定期的に収集したデータをもとに時系列データの解析を行います。

表：評価項目と評価ツール

対象	評価項目	評価ツール
① 認知症患者	BPSD の重症度	日本語版 Neuropsychiatric Inventory-Questionnaires; NPI-Q
	せん妄出現率	3-minute diagnostic assessment for CAM-defined delirium; 3D-CAM
	向精神薬使用量	クロルプロマジン換算; CP 換算（計算式：投与量(mg) × 薬毎の換算係数）
	QOL	日本語版 QOL questionnaire for Dementia; QOL-D
	脳血流値	携帯型脳活動計測装置 Functional Near-Infrared Spectroscopy; fNIRS
② 看護師	バーンアウトと職務満足度	The Japanese Burnout Scale とインタビュー
③ 病院	身体拘束実施率	計算式：1 ヶ月間に身体的拘束を実施した患者数（実人数）÷ 1 ヶ月間の入院実患者数 × 100（病棟単位）
	離職率	昨年度の看護職員の総退職者数 ÷ 昨年度の平均職員数 × 100
	入職希望者増減率	計算式：（令和 8 年度の入職希望者数－令和 7 年度の入職希望者数）÷ 令和 7 年度の入職希望者数 × 100
	超過勤務時間	計算式：毎日の看護職員の時間外労働時間数の 1 ヶ月分の合計 ÷ 看護職員の実人数（病棟単位）

この研究では、ユマニチュード®導入の看護師への効果を検証するため、バーンアウトに関する調査（研究科題名：ユマニチュード®導入が看護師のバーンアウトに与える影響―混合研究法による 1 病院での検討―）で研究対象の方より提供いただいた情報を再利用します。データは、名古屋市立大学において解析し、責任を持って管理します。

3 この研究で用いるあなたの情報の内容について

2025 年 7 月～2026 年 4 月の間にバーンアウトの調査（課題名：ユマニチュード®導入が看護師のバーンアウトに与える影響―混合研究法による 1 病院での検討―）にてご回答いただいた、またはこれからご回答いただく情報を用います。用いる情報は、以下のとおりです。

- ・アンケート調査のデータ：年代、経験年数、職位、夜勤回数、残業時間、勤務病棟、バーンアウトの状態（The Japanese Burnout Scale）
- ・インタビューデータ：ユマニチュード®研修導入前後の看護場面内での精神的負担、感情を抑えて淡々と業務をした経験、仕事に関する無力感についての語り

4 研究の実施体制

この研究は、名古屋市立大学とみらい光生病院の多機関共同研究です。

名古屋市立大学

研究責任者（研究代表者）：看護学研究科 高齢者看護学 准教授 小山晶子

研究分担者：看護学研究科 看護地域連携センター 教授 久保田正和

みらい光生病院

研究責任者：みらい光生病院 看護部 看護部長 小室香

研究分担者：みらい光生病院 看護部 副看護部長 桂田久子

研究分担者：みらい光生病院 病院長 妹尾恭司

5 個人情報等の取り扱いについて

あなたの情報は、氏名等の個人を特定する内容を削除し、代わりに符号をつけて取り扱います。得られたデータがあなたのデータであると特定されることはありません。また、この研究の成果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、その際も、そこに含まれるデータがあなたのものであると特定されることはありません。

6 この研究の資金源および利益相反について

企業等の関与により研究の公正さが損なわれる可能性がある状態のことを、「利益相反」といいます。企業等から研究資金の提供を受けている場合等には、利益相反を適切に管理する必要があります。

この研究は、文部科学省の科学研究費補助金により実施するものです。利益相反の状況については、名古屋市立大学大学院医学研究科医学研究等利益相反委員会に必要事項を申告し、適切に管理しています。また、共同研究機関においても各機関の規程に従い、適切に対応しています。

7 相談やお問合せがある場合の連絡先

この研究について知りたいことや、ご心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。また、この研究の計画について詳しくお知りになりたい場合は、研究に参加している他の方の個人情報や研究の知的財産等に影響しない範囲で、資料をお渡ししたり、お見せしたりすることが可能です。

また、この研究にあなたの情報が利用されることを希望されない場合は、電話によりご連絡ください。

【連絡先】

名古屋市立大学大学院看護学研究科 高齢者看護学

電話番号： 052 - 853-8055

（対応可能な時間帯）平日（月～金）10時から17時

対応者： 小山 晶子